

7. 河川及び排水路工事

7-1 コンクリート法覆工・アスファルト法覆工

(1) 法面整形施工状況



撮影方法

- 使用機械がわかるとともに、施工状況全体がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 使用機械名を記入する。

留意事項

- 必要のない機械（左手前）は、できるだけ写さない。
- 黒板を左手前におき、記入内容が読めるようにする。

(2) 布設状況



撮影方法

- 布設全景がわかるように撮影位置を工夫する。
- 布設工法の特徴がわかるように使用機械の状況と合わせて撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 使用機械名・布設材料名を記入する。

留意事項

- 黒板を手前にして、記入内容がわかるようにする。
- マット布設作業の特徴がわかるように作業状況を中心に近接した撮影もする。
- 作業に関係のない機種が入っており、撮影目的がわかりにくい。

7-1 コンクリート法覆工・アスファルト法覆工 (3) 出来形測定状況

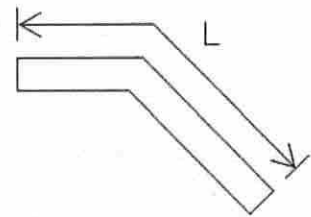


撮影方法

- 出来形寸法が確認できるように撮影する。
- 測定位置がわかるように、マーキング等を行うとよい。
- リボンロッドを使用する場合は、できるだけ目盛がカメラの正面になるように使用し、たるませないように張力を加える。
- 必要に応じ、あて木、ピンポールなどを使用する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 断面略図を記入する。



留意事項

- 施工範囲全体が確認でき、アップで測定寸法もわかる。
- できるだけリボンロッドの目盛がカメラの正面になるように、上部から撮影するか、あるいはリボンロッドを立てる。

7-1 コンクリート法覆工・アスファルト法覆工 (4) 法枠施工状況



留意事項

- 撮影目的に余分な木材は片付ける。
- 法面の勾配がわかりにくいので、下方からのアングルで撮影する。

撮影方法

- 法枠の形状・法面の勾配・基盤面の状況がわかるようなアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 法枠の材料名・規格・寸法を記入する。

(5) 法枠施工完了



留意事項

- 左手前は余分なスペースとなっている。
- 写真は連続性のあるアングルであるが、できるだけ法枠の正面で撮影する。
- 黒板を手前におき、記入内容が見えるようにする。

撮影方法

- 施工延長が長い施工範囲全体を確認できるようにする場合、アングルを工夫して撮影するか、連続写真を継ぎ合わせる。

7-1 コンクリート法覆工・アスファルト法覆工
 (6) 出来形測定状況 (法長)



留意事項

- つなぎ写真で施工範囲がわかりやすい。
- ピンポールが細くわかりにくいので、あて木など幅の広いものを用いる。

撮影方法

- 測定範囲がわかるように、あて木やピンポールを用いる。
- リボンロッドを立てて使用し、適当な張力を加え、たるませないようにする。

(7) 出来形測定状況 (厚さ)



留意事項

- カメラアングルが良い。
- 撮影目的のためもう少し近接して撮影する。

撮影方法

- 測定箇所はもちろんのこと、背後の連続性も確認できるアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。